

令和6年度診療報酬改定に向けた内保連提案について

一般社団法人内科系学会社会保険連合
理事長 小林弘祐

内科系学会で構成される一般社団法人内科系学会社会保険連合（以下、内保連）は、わが国の国民皆保険制度を守りつつ、医学医療の進歩に寄与すべき学会の責務として、隔年の診療報酬改定に際して技術提案を行うと共に、現行診療報酬体系における「モノ」から「技術」へ」の内科系技術評価の確立を目指して活動してきた。

令和4年度診療報酬改定でも、「モノ」から「技術」へ」を掲げ、改定に臨んだ。内保連として11項目の基本要望および学会で順位付けした医療技術441件（未収載171件、既収載270件）、基本診療料54件、医薬品18件を提出した。また、緊急提案として小児医療に関する要望書を提出した。提出された提案書495件（医薬品を除く）のうち、一部反映を含めると78件（15.8%）が診療報酬に反映された。しかし「モノ」から「技術」へ」の内科系技術評価については十分とは言えなかった。

令和6年度改定においても、内保連の「モノ」から「技術」へ」という基本方針を貫き、超高齢化社会における医療費増大の抑制と「医療・介護の一体改革」推進のなかで、以下の11項目を令和6年度改定における「内保連基本方針」と定めた。

1. 「重症度、医療・看護必要度」におけるA項目の評価項目及び評価基準の見直しに関する提案
2. 内科系治療の基本である薬物療法における処方技術の評価：「注射処方料」ゼロの是正
3. 「説明と同意」を評価し、「人工呼吸器装着時意思決定支援管理料」を新設
4. 医療安全の推進（血液採取料の適正評価、消化器軟性内視鏡安全管理料の新設）
5. チーム医療の推進と医師負担の軽減
6. 医療連携と在宅医療の推進
7. 妊娠・周産期医療の重視（ライフサイクルの包括的な支援1 家族もささえる医療へ）
8. 小児医療の重視（ライフサイクルの包括的な支援2 病院外とも連携する医療へ）
9. 遠隔医療の推進（オンライン診療、遠隔モニタリング、専門的支援）
10. AI（人工知能）診療・診断の推進
11. 国民に役立つ医療技術の導入・強化（令和6年度内保連医療技術提案）

今回の内保連提案は、技術提案416件（未収載技術147件、既収載技術269件）、基本診療料43件、医薬品26件であり、提案内容の重複や不整合を避けるため、複数学会による共同提案を推奨し、共同提案で提出された提案の割合は未収載技術77%、既収載技術66%、基本診療料77%であった。

また、各学会で提案項目の順位付けが行われた。

関係各位におかれましては、以下に纏められた内保連提案にご理解を賜るよう、切に望むものである。

以上